

# 高校レベルから導入可能な「英語集中演習」<sup>1)</sup>

野中 辰也・関 久美子

An Intensive Training Course in English for High School Students and Up

Tatsuya Nonaka, Kumiko Seki

## 1. はじめに

本稿では、主に短大生を対象として英語運用能力の総合的な養成を目的とした演習科目「英語集中演習」の概要と具体的な活動内容・指導手順を紹介する。この科目は、英語運用能力の向上を図るためにさまざまな活動を「英語のみ」で行なう集中演習である。教員・学生ともに、3日間にわたり「英語のみを使用」して演習活動を行ない、午前の演習開始時から午後の終了時まで、休憩時間・昼食時間を含めての全ての時間を英語で過ごすことが要求され、日本語の使用は一切許されない。最終的には、この演習授業により、日常生活を英語で過ごすための素地を養成することを到達目標としている。

## 2. プログラム概要

1年前期末の3日間の集中演習で、30分～150分程度のさまざまな言語活動を個別ないしグループワークでこなす。高校・大学レベルでの英語集中演習の形式としては、数日間の合宿形式で24時間通して英語で過ごす形態のものもあるが、本演習では予算と参加者の心的負担を考え、3日間登学しての5コマ×3日間＝計15コマ（約27時間）の形式を採っている。

## 3. 参加者

参加学生は、短大在学中に海外留学や短期語学研修への参加を希望する1年生を中心とした20名前後である。加えて、前年度に同演習に参加した学生も一部TAとして参加している。また、昨年度からは同じ学園内の高等学校からの生徒若干名の参加も受け入れている。参加短大生全体の英語運用能力のレベルはhigher elementaryからlower intermediate (TOEIC IP score 200点台後半～400点台前半)で、決して高いとは言えないが、夏季休暇にあたる時期に登学して選択科目である同演習に参加しようとする姿勢から、英語学習に対する動機づけは比較的高いと考えられる。

担当教員はカナダ人教員1名と日本人教員2名の計3名で、演習実施1月前からの数回の打ち合わせを

経て、演習の3日間は全員が通して指導にあたっている。

#### 4. スケジュール

3日間の演習スケジュールは次ページのとおりである。基本的に短大の授業時間割（午前2コマ、午後3コマ）に沿ったスケジュールリングで、活動の合間に適宜10分程度の休憩をはさんでいる。

Day 1のActivity I-Ⅲは参加者全体を3つのグループに分け、3名の教員が指導する個別の言語活動をグループごとに時間をずらして行うものである。また、Day 1/2のExtra Activityでは、予備教材を投入したり、翌日の活動の予習にあたる課題説明をしたりしている。

図表1：演習スケジュール

	Day 1	Day 2	Day 3
9:00	<b>Opening/Warm-Up</b> (70-80 mins.)	<b>Cooking in English</b> <b>Game (Fruit Basket)</b>	<b>Cooking in English</b> (180 mins.)
10:00		<b>Interview</b> (60 mins.)	
11:00	<b>Activity I</b> (90 mins.)	<b>Money Talks</b>	
		<b>Role Playing Review</b>	
12:00	Lunch	Lunch	Lunch
13:00	<b>Activity II</b> (90 mins.)	<b>Role Playing</b> (90 mins.)	<b>Impromptu Speech</b> (90 mins.)
14:00	<b>Activity III</b> (90 mins.)	<b>Reading Project</b> (120 mins.)	<b>Story Telling</b> (120 mins.)
15:00			
16:00	<b>Extra Activity</b>	<b>Extra Activity</b>	<b>Closing</b>

#### 5. 言語活動の実際

実際の演習では後述のようにタスク中心の言語活動を中心にさまざまな活動を用意しているが、導入する活動としては以下が挙げられる：

- 1) 話す・聞く力を伸ばすための活動（付随して読む・書く活動）
- 2) ふだんの1コマの授業では扱いにくい長時間をかけての活動
- 3) 留学・ホームステイといった海外滞在に役立つ活動
- 4) 集中演習終了後の自学自習に役立つ（波及効果の期待できる）活動

以下、3日間の活動の主なものを、導入順に紹介していく。

5. 1. Find Someone Who (Warm-Up Part I)

概要：

集中演習のウォーミングアップとして、参加者全体で自己紹介&インタビューをしながら、相互に必要な情報を聞き出す・与える活動を行う。(所要時間30-40分、一斉活動)

必要な教材・機材：

ハンドアウト

図表2：ハンドアウト1

Find Someone Who:

Has a pet: \_\_\_\_\_  
What kind? \_\_\_\_\_

Lives in Niigata City: \_\_\_\_\_  
Where? \_\_\_\_\_

Likes to eat ice cream: \_\_\_\_\_  
What kind? \_\_\_\_\_

Likes to wear jeans: \_\_\_\_\_  
Why? \_\_\_\_\_

Rides their bicycle to college: \_\_\_\_\_  
How long does it take? \_\_\_\_\_

Eats in a restaurant sometimes: \_\_\_\_\_  
Which restaurant(s)? \_\_\_\_\_

Has been to a foreign country: \_\_\_\_\_  
Where? \_\_\_\_\_

Takes the train to college: \_\_\_\_\_  
How long does it take? \_\_\_\_\_

Doesn't like coffee: \_\_\_\_\_  
Why not? \_\_\_\_\_

Can play a musical instrument: \_\_\_\_\_  
Which one? \_\_\_\_\_

Likes studying English: \_\_\_\_\_  
Why? \_\_\_\_\_

Find Someone Who:

Has a pet: \_\_\_\_\_  
What kind? \_\_\_\_\_

Lives in Niigata City: \_\_\_\_\_  
Where? \_\_\_\_\_

Likes to eat ice cream: \_\_\_\_\_  
What kind? \_\_\_\_\_

Likes to wear jeans: \_\_\_\_\_  
Why? \_\_\_\_\_

Rides their bicycle to college: \_\_\_\_\_  
How long does it take? \_\_\_\_\_

•

•

•

手順：

- 1) 参加者にハンドアウトを配布し、必要な情報を得るための疑問文を確認する。
- 2) 参加者は教室内を歩き回り、他の参加者と挨拶・自己紹介をしたうえで、ハンドアウトの項目に当てはまるかを質問・応答しあう。
- 3) ひとりの参加者について質問・応答し、必要な情報を得た・与えた時点で、挨拶をし、別の参加者に移り、(2)と同様の活動を繰り返す。
- 4) すべての情報を得た参加者が出るか参加者が十分な人数と話した時点で活動を終了させる。

留意点：

教員は全体のコーディネイター役となり、参加者ができるだけ多くの人とコンタクトがとれるように、「交通整理」をするほか、適切な疑問文を発話できない参加者の補助にあたる。

5. 2. What Is the Word for It? (Warm-Up Part II)

概要：



ウォーミングアップの追加活動として、基本的な語彙を相手に説明するための表現に慣れさせる。

(所要時間30-40分、ペア・グループワーク)

必要な教材・機材：

ハンドアウト

図表3：ハンドアウト2

 WHAT IS THE WORD FOR IT?  It's a kind of ~ It looks like ~ It's made of ~ You use it to ~ It's the opposite of ~ For example, ~  Gestures! 😊  	Coffee Car Conversation House Bus Computer Cook Music Beach Bicycle Soccer Drink . . .	Piano Pencil Wind Sumo Water Monster Sandwich Sushi Walk Door Paper Hot . . .
---	--	---

手順：

- 1) 参加者にハンドアウトを配布し、相手の知らない語彙を説明する際に使える表現を確認する。
- 2) 参加者はペアになり、それぞれが別の語彙リストを受け取り、交互に自分のリスト中の任意の単語の説明をして、その語を相手に推測させる。
- 3) 相手が正しく言い当てた場合は、出題を交代し、(2)と同様の作業を行う。
- 4) すべての情報を得た参加者が出るか参加者が十分な人数と話した時点で活動を終了させる。

留意点：

教員は机間巡視をし、説明文を考えるヒントとなる語彙や表現を出題者に与える等の補助にあたる。

### 5. 3. Movie English

概要：

映画のワンシーンを題材として聴き取り活動をしたうえで、そのシーンを自分たちの英語で吹き替え(アフレコ)活動を行う。(所要時間80-90分、個別活動および3~4人程度のグループワーク)

必要な教材・機材：

リスニング用ハンドアウト、DVD、PCないしDVDプレーヤ、ヘッドホン(以上それぞれ参加者数分)、教員用PC、DVD編集ソフト、録音用マイク、教員PC画面・音声提示装置

## 手順：

- 1) 映画のワンシーン（90秒前後）の SCRIPT の一部の単語を空所にしたハンドアウトおよびDVDを各自に配布し、PCを使用した個別作業で、空所埋めのリスニング活動を行う。（15分）
- 2) 参加者同士で聴き取った箇所を確認し、それぞれの活動成果を共有する。（10分）
- 3) 全体で正答の確認をし、ポイントとなる表現等の意味を確認する。（20-25分）
- 4) 全体を3～4人のグループに分け、セリフの割り振り（1人3役程度）をし、アフレコの練習をする。（20-25分） 練習の冒頭では、教員がモデルリーディングを行い、音声上のポイント（主にストレスやイントネーションといった発音）や発音・アフレコ作業のコツなどを解説する。続いて、SCRIPT のセリフを単純に音読する練習で始め、映像・音声を見ながらの音読練習、アフレコのタイミングに合わせての発話練習、音声を消して映像のみでの発話練習などを繰り返す。
- 5) グループ毎に教員PCのソフトを使用してアフレコ作業を行う。アフレコしたビデオは順次皆で確認し、教員のフィードバック（主にcompliment/encouragement）を与える。（10-15分）

## 留意点：

- 1) 初日の活動ということもあり、教材作成にあたっては、適当な長さ・難易度の場面を選択したうえで、参加者のレベルにあった空所補充問題を作成し、達成感を得られるようにする。
- 2) 参加者にとっては今までにはほぼ経験したことがない活動で、最初のうちは大きな声での発話に慣れないが、アフレコ練習で発声のポイント等を適宜指示し、発話に慣れさせる。
- 3) この活動の特にアフレコ（映像に合わせて発話する）部分は、ふだんの自学自習でも活用できる点を確認し、波及効果を高めるようにする。

## 5. 4. Express Your Emotions

## 概要：

さまざまな感情を表す語彙を復習した後、特定のコンテキストにおいて、そのコンテキストに適した感情を込めダイアログの練習を行う。（所要時間80-90分、ペアワーク）

## 必要な教材・機材：

語彙一覧ハンドアウト、SCRIPT PP、市販教材・付属CD

## 手順：

- 1) 感情を表す語彙一覧のハンドアウトを配布、各自に辞書を使って意味を確認させる。（10分）
- 2) 再度全体で意味を確認するために、教員が “When are you nervous?”, “When are you confused?” といった質問を投げかけ、参加者はそれらに答える。（20分）
- 3) ペアになり、指定された感情を込めて短いロールプレイを行う。この時に与えられるSCRIPT はどのペアも同じものであるが、指定される感情（興奮、苛立ち、困惑など）はペアごとに異なる。（20分）
- 4) 市販教材である岩村（1999）から特定のコンテキストにおけるダイアログのSCRIPT を抽出し、各ペアに与え、参加者は付属のCDを聞きながらイントネーションやストレスを徹底的に練習する。SCRIPT に慣れてきたら、さらに自分の解釈を加え、より感情豊かに演じられるよう、動きも加えながら練習する。（25分）

5) 最後に各ペアで発表する。オーディエンスは、登場人物の関係性、感情、どのような状況かを読みとり、あるいは推測して、意見を共有する。(15分)

**留意点：**

感情を込めたり、登場人物になりきってロールプレイを行ったりすることに対して抵抗のある参加者や、過去にこのような活動を行ったことがなく戸惑う参加者も少なくない。随所で教員が「お手本」を示すことはもちろん、参加者の活動エネルギーを高めるために、教員が率先して自らの活動エネルギーを高めてそれを放出することが不可欠である。

## 5. 5. Interview

**概要：**

前年度、留学または語学研修を経験した2年生の学生TAに対し、質問カードを1枚ずつ引きながら、そのカードに書かれたヒントをもとに、疑問文を作り質問する。(所要時間60分、4～5人程度のグループワーク)



**必要な教材・機材：**

質問カード(1セット約40枚×グループ数)、TA学生は留学・語学研修の写真を持参

**手順：**

- 1) 4～5人程度のグループに1名のTA学生を配置する。グループで簡単な自己紹介を行う。(1～2分)
- 2) 質問カードの説明を行う。カードには参加者への指示と、その情報を得るための疑問文が穴埋め形式で書かれており、必要な語を補うことで疑問文が完成する。

図表4：質問カード例

<p>5. Ask what souvenir she bought for her host sister or host brother</p> <p>What souvenir did you</p>  <p>_____ ?</p>	<p>6. Ask why she decided to go to America.</p>  <p>Why did you decide to</p> <p>_____ ?</p>
--	---

質問カードの他に、若干のゲーム性を加えるために、“Skip”(1回休み)、“Draw two”(カードを2枚引く)、“Reverse”(逆回り)、“Free”(フリークエスチョン)、“Choose 1 photo”(TA学生の持参した写真から1枚選び、それについて質問する)、“You are the interviewee!”(TA学生から質問を受ける)といったカードが用意されている。(10分)

- 3) テーブル中央に積み重ねられたカードから順に1枚ずつ引いて質問する。15分ほどしたら、TA学生がテーブルを移動、自己紹介をして、再び質問を始める。(45分)

**留意点：**

カードはあくまでも補助的なもので、自発的に質問が出るようになれば、それらを優先する。

5. 6. Role Playing

概要：

留学・研修先でのやりとりを想定したロールプレイで、「空港」「銀行」「CDショップ」「レストラン」の4つの状況で与えられたタスクをこなす。(所要時間120分、個別活動)

必要な教材・機材：

サンプルダイアログシート、タスクカード、入国書類&サンプル、航空券、トラベラーズチェック、ドル札、コイン（実物）、CD（実物）、レストランメニュー、レストランオーダーシート

図表5：タスクカード例

<p style="text-align: center;"><b>Information for Your Role</b></p> <p>Name: _____</p> <p>Date of Birth: ____/____/____ (Write Your Own: Day/Month/Year)</p> <p>Passport #: <b>SS2421053</b></p> <p>Your Situation: You're going to Seattle <b>for sightseeing for five days.</b></p> <p>Flight #: <b>UA876</b></p> <p>Address in the US: <b>Comfort Inn, 396 21st Ave. Ct.</b> (Street Address) <b>Maple Valley, WA</b> (City and the State)</p> <p style="text-align: right;">SSS</p>	<p style="text-align: center;"><b>Your Task (bmt)</b></p> <hr/> <p><b>1st task:</b> Go through <b>passport control</b> (Rm 1301). Use your name tag as your passport, and answer the questions according to the information on the other side of this card.</p> <hr/> <p><b>2nd task:</b> Go to <b>the bank</b> (Rm 1304) and cash <b>one of your 20-dollar T/Cs</b> into <b>one 10-dollar bill and two 5-dollar bills.</b></p> <hr/> <p><b>3rd task:</b> Go to <b>the music store</b> (Rm 1305) and get <b>one CD.</b> You should <b>pay with your cash</b> that you got at the bank.</p> <hr/> <p><b>Last task:</b> Go to <b>the restaurant</b> (Rm 1302). Wait at the entrance until a waitress comes to you, and then follow the waitress to your table. At the table, get a menu and decide what to order on the menu. You should order <b>one main dish, something to drink, and a dessert.</b> You can spend <b>as much as \$20</b> here, including sales tax and tipping. Finally, figure out the amount of money you should <b>pay with cash or T/Cs.</b></p>
---	--

手順：

- 1) 事前指導として、前日演習終了時に各状況でのサンプルダイアログが書かれたシートを参加者に配布し、自宅でシートの表現・語彙等を確認してくるよう指示する。(10-15分)
- 2) 当日の活動では、参加者に以下の物品を配布し、内容を確認させる。

タスクカード (各自の状況・活動手順が記載されている)	入国書類&サンプル
航空券	トラベラーズチェック (20ドル×3枚)

- 3) 参加者に活動全体の流れを説明し、必要書類の記入を開始させる。(15-20分)
- 4) サンプルダイアログの復習をした後、必要書類の記入が済んだ参加者から、ロールプレイを開始する。全員が空港からスタートして、タスクカードで指示された順に銀行>CDショップ>レストランないしCDショップ>銀行>レストランへと進み、タスクをこなす。(60-80分) 各教員とTA学生で空港職員、銀行員、CDショップ店員、ウェイトレス役を分担するほか、参加者のヘルプにあたるTA学生を何名か配置する。
- 5) すべてのタスクを終えた参加者はTA学生の指導のもと、アメリカのコインの使い方を学び、他の

参加者の終了を待つ。

留意点：

- 1) 参加者には留学予定者、短期語学研修参加予定者、その他の参加者がいるため、それぞれに見合った設定を用意する。また、友人間で同一タスクになり友人の例を単純にコピーしての活動にならないように設定を細かく調整する。
- 2) 銀行、買い物といった状況に関連して、予習としてコインの使い方についての活動を入れている。

## 5. 7. Renewable Energy (Reading & Presentation)

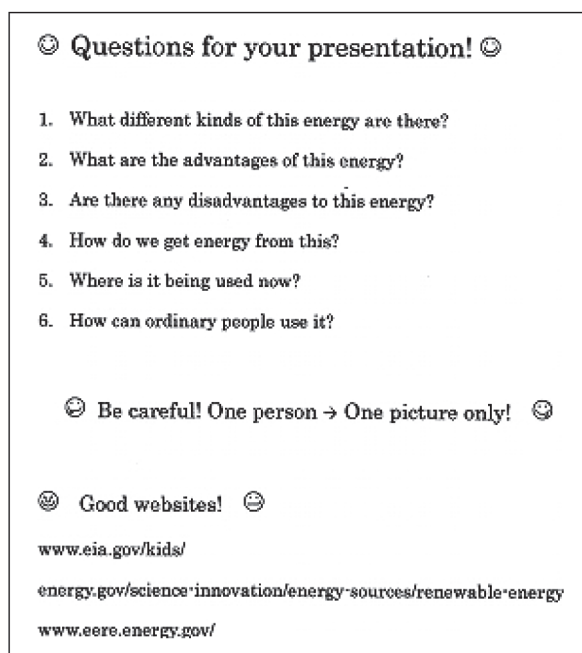
概要：

代替エネルギーについてネットから情報を収集し、それをもとに3～5分程度のプレゼンテーションを完成・発表させる。(所要時間120-150分、5人程度のグループワーク)

必要な教材・機材：

ハンドアウト、PC (参加者数分)、PC画面提示装置

図表6：ハンドアウト3



手順：

- 1) 教員が活動の全体の流れを説明する。(5-10分)
- 2) 参加者は5人のグループに分かれ、“Biomass,” “Geothermal,” “Hydropower,” “Wind” の4つの代替エネルギーのうち、指定された1つについて「下位分類」「利点」「欠点」ほか5つの項目についての情報収集を開始する。(50-60分)
- 3) 収集した情報をもとに、観点ごとに3～5文程度でまとめた発表原稿を作成する。(30-40分)
- 4) 観点ごとの画像を加えたうえで、プレゼン練習をし、最終プレゼンに臨む。(30-40分)



**留意点：**

- 1) グループごとにTA学生を配置し、参加者の検索・英文作成の補助にあたらせる。
- 2) 情報収集先の各種英語サイトの英語は難易度が高いこともあるので、必要に応じて教員が個別にブレゼン作成のヒントを与える等の補助にあたる。

**5. 8. Cooking in English****概要：**

キッチン用品の名前、料理手順を説明するフレーズを学び、グループで日本食のレシピを考え、発表する。その後、教員の英語の指示を聞きながら、実際にホットドッグとフルーツサラダを調理する。  
(所要時間180分、教室では3～4人程度、調理室では5～6人程度でのグループワーク)

**必要な教材・機材：**

「キッチン用品・料理の動詞」のハンドアウト、「キッチン用品・料理の動詞」のカード、レシピ作成用ハンドアウト、調理器具一式

**手順：****教室での活動**

- 1) キッチン用品の名前、料理の動詞を各自辞書で調べ、「キッチン用品・料理の動詞」のハンドアウトに書き込む（時間がある場合は前日までに予習として行っておく）。グループで順番に「キッチン用品・料理の動詞」のカードを1枚ずつ引きながら、カードの写真のキッチン用品、または動作の動詞を覚えているかどうか発話しながら確認する。（30分）
- 2) 全体で、レシピを説明する時に必要となるフレーズ（“I'm going to tell you how to cook AAA”, “First, please prepare BBB, CCC, …”, “Finally, arrange DDD on a plate”, “Now, EEE is ready”等）を練習する。次にPPに映し出されたポテトサラダの作り方の絵を見ながら、全体で手順を英語にして発話する。（15分）
- 3) 各グループに“Curry & Rice,” “Fried Rice,” “Miso Soup with Pork”といった日本の家庭料理の課題を与え、グループで協力し合いながら英語でレシピを考える。レシピができたグループから、そのレシピを他のグループのメンバーにしっかり伝えられるよう、ジェスチャーも交えながら各自で練習する。（50分）
- 4) 各グループから1名ずつで新しいグループを構成し、グループ内で順番に各自自分のレシピを発表する（15分）。
- 5) 教室での活動終了後、調理室へ移動。（10分）

**調理室での活動**

- 1) 調理室利用の注意点を伝えた後、復習も兼ねて、全体で用意されたキッチン用品の名前を確認する。（10分）
- 2) これから何を調理するかといった全体像は伝えず、各グループから1名ずつ順番に呼び出し、調理の手順をワンステップずつ英語で指示する。参加者は指定された調理器具を使い、指示通りに調理を行う。（60分）
- 3) できあがったホットドッグとフルーツサラダをその日の昼食とする。昼食後は昼休み時の時間を利

用し、グループで協力し合いながら後かたづけを行う。

**留意点：**

実際に料理をしたことがない参加者が多く、「英語」以前に「料理」自体が大きなハードルとなる可能性が大きい。英語でレシピを考える活動では、作り方が分からない、あるいは各家庭で材料や手順が異なることから、互いにうまくネゴシエートできず先に進まないといったことが生じるので、教員やTA学生のファシリテイトが重要となる。また、実際に調理を行う時は、作業に手間取る参加者も多く、教員からの指示も作業進捗を見ながら臨機応変に行う必要がある。

## 5. 9. Impromptu Speech

**概要：**

少人数グループに分かれて、身近な話題についての即興スピーチを行う。(所要時間80-90分、4～5人程度のグループワーク)

**必要な教材・機材：**

トピックカード (Basic 23枚×2セット×グループ分、Advanced12枚×2セット×グループ分)

図表7：トピック例

(Basic Topics) pets, cooking, TV, music, movies, books, sports, shopping, family, hamburgers, coffee, food, tea, friends, pizza, English, August, weekends, summer, winter, Christmas, birthday, free topic			
(Advanced Topics)	The Worst Nightmare I Had	My Most Embarrassing Moment	
A Funny Person I Know	My Most Favorite Movie	My Most Favorite Celebrity	
One thing I Really Hate to Do	Three Wishes of Mine	My Favorite Thing to Do	
My Favorite Place to Go	My Favorite Food	My Family	free topic

**手順：**

- 1) 参加者を4～5人程度のグループに分け、その中央に裏返しにしたBasic Topicカードの山を配置する。
- 2) グループ内で順番にカードを引き、トピックをほかのメンバーに見せたうえで、そのトピックについてのスピーチを即興で考え、発表する。発表者は3文以上のショートスピーチをし、準備に使える時間は10～15秒とする。Free Topicというカードを引いた場合は、自由なトピックでのスピーチができる。活動を進めていくうちに同じトピックを引いた場合は、同じトピックの別バージョンのスピーチを考えさせる。(25-30分)
- 3) Basic Topicでの活動を30分程度続け、発話に慣れたところで、トピックカードの山をAdvanced Topicのものに替え、準備に使える時間を15～20秒に伸ばしたうえで、同様の活動を行う。スピーチの長さを5文以上とするなど、若干難易度を上げる。(25-30分)
- 4) Advanced Topicでの活動を30分程度続けた後、グループ間でメンバーをシャッフルし、別のメンバーを相手に、引き続きAdvanced Topicでの即興スピーチを行う。(25-30分)

**留意点：**

- 1) TA学生を各グループに配置し、全体のモデレーター役や参加者のヘルプ役を担わせる。加えて、教員は各グループ間を巡視し、必要に応じてヒントとなる語彙等を提示する。
- 2) Advanced Topicsは、事前の別授業でライティング課題として提示済みのものを主として、参加者が取り組みやすいものを用意してある。

**5. 10. Let's Tell a Japanese Folktale in English****概要：**

日本の昔話「浦島太郎」のストーリーを外国人に伝えるために即興で話を考える活動に加えて、「浦島太郎のその後」の話を創作し、グループ単位で発表する。(所要時間120分、4～5人程度のグループワーク)

**必要な教材・機材：**

浦島太郎の英語版ストーリーのハンドアウト、桃太郎の英語版キーワード・リスト、紙芝居PP

**手順：**

- 1) 事前指導として、前日演習終了時に浦島太郎の英語版ハンドアウトを参加者に配布し、自宅で物語の表現・語彙等を確認してくるよう指示する。(5-10分)
- 2) 当日の活動では、まずストーリーテリングに慣れさせるため、例として桃太郎についてのキーワード・リストを配布し、教員が提示する紙芝居PPとモデルリーディングに合わせて、桃太郎のストーリーを英語で追っていく。(10-15分)
- 3) 4～5人程度のグループに分かれ、順番に浦島太郎の物語を再構築していく。前日配布したハンドアウトを参照することなしに、一人ずつ順番に1～2文程度で物語を進め、オリジナル版の結末まで話を続ける。(30分)
- 4) 浦島太郎のストーリーテリングが完結したら、「浦島太郎のその後」を創作する作業に移る。ここでも一人ずつ順番に1～2文程度で物語を進め、最終的に物語を完結させる。(45分)
- 5) 物語が完結したところで、それをプレゼン原稿にまとめ、プレゼンテーションを行う。(30分)

**留意点：**

- 1) TA学生を各グループに配置し、全体のモデレーター役にあたらせる。教員は各グループ間を巡視し、必要に応じてヒントとなる語彙等を提示するほか、プレゼン原稿の作成指導にあたる。
- 2) 特に浦島太郎のストーリーテリングでは、物語の進みが早すぎたり遅すぎたりしないように、グループ毎に適度な進捗で進むように調整作業を行う。

**6. 評価方法**

演習授業終了後、教員の話し合いによって各学生の成績評価を行う。具体的には3日間を通しての参加者それぞれのパフォーマンスと学習の伸び率を勘案した印象評価を60～100点の幅で点数化し、評価としている。この評価のために、教員は活動の時間はもちろん休憩時間も参加者のパフォーマンスを観察し続け、必要に応じてTA学生に感想を求めたりもしている。

## 7. まとめ - 教育効果と可能性、課題

本集中演習は、本学でFDの一環として実施されている学生授業評価アンケートで安定した高評価を得ており、特に学内で実施している短期留学プログラムや語学研修に参加予定の学生からは「非常に実践的でためになった」というコメントが多い。さらに留学・語学研修経験後には演習授業で学んだことが実際に現地で役立ったという声も聞くことから、一定の教育効果が得られていると考えられる。また初日と最終日を比較すると、参加者の発話量が格段に増加しているのが見てとれる。特に最終日午後の活動であるImpromptu SpeechとStory Tellingで3時間以上に渡って集中力を切らさずに話し続けている様子は、担当教員も目を見張るものである。

また、この集中演習には前年度同演習に参加した2年生数名をTA学生として参加させているが、これらの学生に対しても十分な教育効果が期待できることがわかった。当初は単純に1年生と同じように活動に参加しモデル学生としての役割を期待していたが、特に今年度の場合は、その役割に加えて本来教員が担うような学習指導・支援といった役割をTA学生が果たしえることがわかった。演習後のTA学生のコメントから、そうした役割を果たすことが同学生の英語学習に対する動機付けを高めているということもうかがわれた。

なお、本演習には昨年度から学园内高等学校からの依頼により数名の高校生を受け入れている。受け入れから得た印象としては、まず、なによりも参加者の動機づけがしっかりしていれば、高校生対象の集中演習の実施は十分可能である。ただし基本的な英語運用能力（英検準2級程度）を持っていることが望ましく、さらにパフォーマンスに対する興味・関心がないと指導が難しい。また、教員としては導入する活動の難易度調整に十分時間をかける必要がある。

最後に、本集中演習の今後の課題としては、難易度の高い一部活動の完成度を高めることが挙げられる。一例としては、参加学生は一般的にリーディング力が低いため、それが含まれる活動になるとパフォーマンスが下がることが観察されている。この問題の解決のためには、普段から学生のリーディング力を高める指導が必要であるとともに、参加者の能力に見合った教材を開発する必要がある。

### 注

- 1) 本稿は関東甲信越英語教育学会第36回群馬研究大会でのポスターセッションの発表内容を加筆修正したものである。

### 引用文献

- 岩村圭南. (1999). 『英語リピーティング入門－英語の耳と口を同時に強化！ ネイティブに近づく効果的メソッド』 アルク.